

＜産地レポート＞

JAならけん椿井営農経済センター 奈良県平群町の小菊栽培で 活躍する育苗培土「与作N-100」について

ジェイカムアグリ(株)「農業と科学」編集部

菊は古今集に12首も詠まれており、古くから大和の国（現奈良県）にゆかりの深い花です。菊栽培は明治の終わり頃から露地栽培を中心に広がりました。特に平群町の菊栽培は、100年以上の歴史ある産地ですが、昭和50年代後半から小菊栽培に特化することでブランド力の強化を図ってきました。

当産地は日照、土質が菊栽培に適した自然環境であり、さらに中山間地の標高約400mを活かした小菊作りに最適な条件下、夏秋期の生産量は日本一を誇ります。また新鮮で高品質な『平群町の小菊』でブランド化し、高い市場評価を得ています。

平群町の菊農家は、野菜栽培においても発芽が良く均一な苗が出来る軽量な

セル成型育苗培土「与作N-100」を使用して高品質の野菜を生産し、高い収益を上げております。

今回、JAならけん椿井営農経済センター管内の小菊農家を6月中旬・7月下旬に訪問し、栽培の様子を撮影させて頂きました。

くみあいセル成型育苗培土 与作N-100の特長

用途	使用方法	適用作物	適用時期
セル型育苗	単用	葉菜類・菊	春・秋
添加肥料量mg/ℓ	チッソ	リン酸	カリ
	100	500	100

